

高速増殖原型炉もんじゅの1次系ナトリウム漏えい検出器  
サンプリングポンプ停止によるLCO（運転上の制限）の逸脱及び  
逸脱からの復帰について

発生日時	平成30年 1月11日（木）15時22分
発生場所	高速増殖原型炉もんじゅ 原子炉補助建物
状況	<p>1月11日（木）15時16分頃、1次系電磁ポンプ等が設置された部屋のナトリウム漏えい検出器の停止作業を行っていたところ、誤って運転中のドレンタンク室<sup>*1</sup>まわりのナトリウム漏えい検出器用サンプリング配管の弁を閉止した。これに伴い検出器のサンプリングポンプが停止したため、同タンク室の監視機能が喪失したものと判断し、15時22分、原子炉施設保安規定第34条<sup>*2</sup>に定める運転上の制限の逸脱を宣言しました。</p> <p>その後、同タンクのナトリウム液位等に変動がないこと等から、プラント状態に異常がないことを確認している。</p> <p>18時28分、当該ポンプを起動し、漏えい監視機能の復帰を確認したことから、運転上の制限の逸脱からの復帰を宣言しました。</p> <p>※1：抜き取ったナトリウムを貯留するタンクを設置している部屋 ※2：ナトリウムの漏えい監視装置が動作可能であること（関連抜粋）</p>
環境への影響	本事象による環境への影響はありません。
原因	誤って運転中の1次純化系ドレンタンク室のナトリウム漏えい検出器用サンプリング配管の弁を閉止したため。
備考	